

# 農業経営は簿記の記帳から

## 1. はじめに

那賀郡は紀ノ川平野の中部にあり、和歌山市や大阪府のベッドタウンとして年々人口が増加しているが、農業の就業人口は20%（県は11%）と高く、イチゴ、モモ、イチジク、シャクヤク、スプレーギク、バラ、緑花木は県下一の産地である。

## 2. 活動状況

平成8年1月から、郡内の農業士、青経、生活改善グループ等に呼びかけ、簿記講座を開催している。

第1回目は公開講座として税理士の風神正典氏の講演「可処分所得から見た農業経営と青色申告」で開講。「記帳は確定申告のためにするのではない。」「利益と使えるお金は違う！」生活費増加や設備投資後の採算ライン等、具体的な事例を交えながら記帳と経営管理のポイントについて学習、質疑応答、意見交換をした。

2回目からは9回に分けて複式簿記の基礎知識、仕訳、決算書の作成を勉強した。毎週木曜日の夜的那賀農村青少年センターは、20歳代から50歳代の参加者25名の熱気に包まれ

た。

5月からは実際に自分の経営を記帳してみようということで、9名がパソコンに取り組んでいる。パソコンをさわるのは全く初めての人、ソフトを買った人、日誌をつけている人とレベルは様々であるが、減価償却の計算や仕訳が瞬時にできるので、記帳意欲にはずみがついてきた。

今、農繁期で休んでいる桃山町の女性達も9月から再開する予定である。

## 3. 今後の方向

簿記の基礎をマスターした後、パソコンの記帳を始めたところである。従って、今何が問題か、農家自身が具体的に把握できていないのが現状である。

当面の目標としては、農家個々の経営記帳を通じて数字で把握すること。そしてそれをもとに経営目標をたてたり、労働報酬や休日の設定、経営委譲計画の策定に役立てることが、魅力ある農業の実現と元気のある農業者の育成につながると確信している。

（那賀地域農業改良普及センター）

